

さいたま市教育委員会指定管理者審査選定委員会議事概要

- 1 日 時 令和4年10月5日(水) 13時30分～15時15分
- 2 会 場 本庁舎2階特別会議室
- 3 出席者 (委員) 山本委員長、加藤委員、清水委員、中島委員、小田嶋委員、栗原委員、
山浦委員
(所管課) さいたま市青少年宇宙科学館
(事務局) 教育総務課

4 諮問内容と答申結果

指定管理者候補案について諮問を受け、次のとおり答申した。

施設名称	施設数	募集方法	指定期間	申請団体(◎が候補者)
さいたま市宇宙劇場	1	公募	令和5年4月1日 ～令和10年3月31日	◎株式会社五藤光学研究所

5 議事要旨

指定管理者の候補者案の選定について

公募の結果、1者から応募があった。提出された事業計画書等に基づき、申請者によるプレゼンテーション及び各委員からの質疑等を行った後、指定管理者候補者案についての審査を行った。

【質疑等】

- Q 利用者ニーズを的確に捉える方法として、カスタマーエクスペリエンスを取り入れたアンケート調査を行なうということだが、その調査結果は運営にどのように活かすのか。
- A 入館する前の情報収集から車での交通アクセス、発券の状況、例えばプラネタリウムを見るまでの待ち時間やプラネタリウムを鑑賞後、帰るまでの一連の流れを、カスタマーエクスペリエンスをとっており、それがネットプロモータースコアにどのような形で影響を与えているかという統計をとっている。埼玉県のある施設では、受け付けがすごくいい、ある施設では交通のアクセスが悪い等、よい影響を与えているファクターと悪い影響を与えているファクターを明確にして、改善できるところから改善していく。
- Q 宇宙劇場は、大宮駅西口に比較的に近いところに位置し、大宮駅は年間利用者数は全国でも上位に入るような駅だが、その駅に近いところを集客につなげられるような活動、広報活動は考えているか。
- A 全国で行っている声優による朗読会というものがあり、大変多くの来館があるイベントで、このイベントは地域の方だけでなく全国から来館来客されるイベントとなっている。そういった場合には、駅近で宿泊施設の多いような地域だと多くの方が見込めるといことで、こういったイベントを、宇宙劇場を中核として全国ツアーで展開するということを考えている。そういった形で、駅近であるメリットを活用したイベントができると考えている。また、駅が近いということでの宣伝は、大宮駅内には、外部の方にも開放されている告知スペース、動画を流せるスペースがあるということも把握しており、広報活動の一環としてそういったものの活用を検討していきたい。

- Q 年間収入である利用料金については、5年間、毎年3,100万円ということだが、上向いていくといった、何かそういう目標はないか。
- A 1人でも多くの方に来館いただけるように努力していくのは当然のことと思っている。プレゼンテーションの中で御説明させていただいたように、やはりコロナ禍において人の行動様式の変化や、宇宙劇場を取り巻く、主に集会室の利用環境で厳しいということがあり、集会室の利用者数がもし万が一減ってもプラネタリウムの利用者数を、我々のノウハウと努力で伸ばして補っていきたいと考えている。
- Q 電灯電力量に関しては、今現在、市の施設の方でも電気代の負担というのが課題になっている。この年度別の計画上、215万円というこの数字はどのような積算になっているか。
- A 宇宙劇場の環境から考え、提示金額の7割から8割程度で利用料金は推移していると推察し、この額に30%乗せた数字として提示した。少しでも節電できるところは節電し、他経費においても工夫し、事業者としてできる限りの努力をしていく。
- Q 運営として会議体が多いが、会議はどのような形態で行っているのか。また、削減できるものはないのか。
- A それぞれ細分化した内容を各グループに分かれて問題を出しあい、全体会議で共有する流れである。それぞれ役割があってやっているものだが、実際に行い、必要のないものやまとめることができるものがあれば整理していきたい。会議の形態については、オンライン上で行うことで経費を削減するようにしている。事務所内で行われる会議は対面式でも行っている。
- Q 全国の施設で様々なイベント等を行っているが、その成功事例を社内共有して、宇宙劇場に活かせるか、また、宇宙劇場に限らず、他で成功して活かした事例があれば教えてほしい。
- A 全国の類似施設で行っている活動、問題や良い点を共有するために、マネージャー会議というものを想定し、ここの中で全国の情報やノウハウを共有し、施設運営に生かしていく。
- Q 若者を呼び込むような、新しく星空ファンを呼び込むような工夫というものを検討しているか。
- A 宇宙や科学と、若者等が興味関心のある分野とを結びつける、紐づけることで今まで科学館、プラネタリウムに足を向けてこなかった方々を招き入れることを検討している。告知活動に関しは、Twitter、ホームページを使い、情報を投げ込み、若い人達にしっかりと情報が届くような形で広報活動をしていく。現在、SNSそれぞれの利用年代を分析し、それぞれのターゲットに告知ができないかということを検討しているが、まずは既存のTwitter、YouTubeに注力していこうと考えている。
- Q 貸室部分についての今後の運営方針を聞かせてほしい。
- A 宇宙劇場まつりでは、プラネタリウムのみならず集会室を活用してワークショップ等を開催するというような、宇宙劇場として集会室を活用してイベントができないかということを検討している。また、様々な貸出条件を緩和し、新たな活用方法として、これまでよりもスペースを細かく区切り、短時間・低価格で使用したいという要望に対応

できないかと考えている。

Q プレゼンテーション内でも提案された、プラネタリウムを鑑賞したいときに鑑賞できる運営とは、何か具体策はあるか。

A 番組を多種多様に取り揃え、様々な組み合わせで、多様な投影スケジュールを考えていきたい。プラネタリウムを利用する際には午前中からぜひ利用したいという、幼稚園、保育園等の声には、御要望に沿った午前中の投影を行う。夜間に投影をしなければいけないイベントでは、夜間に時間をシフトする必要があるため、弾力的な投影スケジュールの運用案を検討している。

Q 人件費と事業費の割合、その比率について詳細を聞きたい。

A 人件費がかなりの割合を占めているが、魅力的な運営をしていくための基本となる技術を持った人が必要になるため大切に考えている。当社の強みとして、プラネタリウムメーカー、プロダクションであることで、事業費における番組制作費や、簡易な保守点検であれば事業所で修繕・予防保全をすることで圧縮が図れる。また、全国で様々な施設運営をしている関係上、事業費の方を抑えるノウハウも持っているため、自分たちのスキルを最大限に活用して、事業費を抑えつつ、運営に必要な人的に関わるところに投資をしていきたいと考えている。

【結果】

さいたま市教育委員会指定管理者審査選定委員会において、さいたま市宇宙劇場の指定管理者に応募した1者を審査した結果、株式会社五藤光学研究所が1433点となり、最低制限基準の60%を超えており、現指定管理者の実績評価点を加点した結果、1477.1点となった。株式会社五藤光学研究所を指定管理者候補者案として答申することを決定した。

<採点結果>

株式会社五藤光学研究所(候補者案) 1750点満点中1433点(最低制限基準 60%を超える81.9%)実績加算点 6.3点×7人=44.1点 合計1477.1点

以上